



事例 立命館アジア太平洋大学
2 (APU)

世界に広がる卒業生を バーチャルネットワークでつなぐ

2000年4月、学校法人立命館の100周年事業として開学した立命館アジア太平洋大学(以下、APU)。

アジア太平洋の国際学生(留学生)と日本の学生が同じカリキュラムで、同じキャンパスで机を並べて学ぶというコンセプトは明快で、その意義は誰もが理解するところだろう。しかしその実現には、相当な困難が伴ったという。

「現在も学生募集には多大なる努力を払っていますが、とりわけ草創期は、聞くも涙、語るも涙というくらい数多くの苦勞がありました。教員と職員がいくつものチームをつくり、韓国、中国、タイ、インドネシアといった地域に頻繁に出張して、学校訪問や説明会のなかで、立命館が責任を持って若者を教育すると何度もうたえました。すると現地の方々も少しずつ理解を示してくれて、われわれもその地域のファンとなり、良好な関係性を築き上げた結果として、ここ大分県別府市に世界各国から数多くの学生が集まるようになったのです」(立命館アジア太平洋大学 高杉巴彦副学長)

大学の学生総数4687名中、国内学生が2753名。一方の国際学生は1934名と、ほぼ4割強を占めている。出身

国は東アジアや西アジア、アフリカ、北中南米、ヨーロッパなど、世界70カ国以上に及んでいる。

世界中から学生が集まり、やがて世界へと羽ばたいていく。世界に広がる人的ネットワークこそが財産であり、在学生や卒業生こそが学園の「宝」であるという考えはまさにAPUの基本理念である。

ほとんどの役員が20代

「APU校友会」が立ち上がったのは、早期卒業者が巣立った2003年3月。本格的なスタートは、1期生が卒業した2004年3月である。

この会には会則があり、役員体制もある。会長は2003年卒者、副会長2名はともに2005年卒者と、当然ではあるが役員は非常に若い。日本人ばかりでなく、インド出身の女性やケニア出身の男性も役員に名を連ねている。事務局長はAPUの学内組織であるネットワーク・オフィスの河内一泰課長、名誉会長はモンテ・カセムAPU学長が務めている。

「校友会活動といえば、一般的には仕事も家庭も落ち着いた年配の方々を中心になるとは思いますが、われわれ



立命館アジア太平洋大学
高杉巴彦 副学長



立命館アジア太平洋大学
河内一泰
ネットワーク・オフィス課長

の役員はまだほとんどが20代で社会人としても駆け出しですから、本当はこういった活動はかなり負担になっていると思うんです。しかし彼らは非常に熱心で、ありがたいことに、APUのことをとてもよく考えてくれています」(河内課長)

若さゆえフットワークも軽く、校友会活動は盛んだ。たとえば国内では、東京、大阪、京都、福岡といった地域を中心に歓迎パーティや懇親会などが頻繁におこなわれている。ホームカミングデイは年一回、「APU校友会総会」として開催され、数多くの卒業生が来場する。2006年は7月16日に行われたが、引き続き翌日の海の日には「夢応援プロジェクト」が開催された。授業のある学生たちと祝日のため会社を休みの社会人が大学で一堂に会し、学生が社会人に対して就職や進学の相談をするという企画だ。これとは別に、卒業生が後輩たちの就職や新生活を応援する場として、3月末に東京、兵庫、福岡でイベントを開いたりもしている。

こうした一連の活動を引っ張っている校友会役員たちと、事務局であるネットワーク・オフィスは頻繁に連絡を取り合っているという。

「年2回、春と秋に幹事会を開き、そこで校友会運営のミーティングを行っています。しかし、それだけでは十分ではありませんので、補う意味で2ヶ月に1度ほど、インターネットを介したテレビ会議を行っています」(ネットワーク・オフィス 古川恵子氏)

イベントの内容を一緒に検討したり、役員人事、予算計画、事業計画などについて話し合い、方向性を決めていくという。

校友会実行委員会を設置して立ち上げる

各地で数々の集まりやイベントが行われているものの、卒業生が一堂に会することは稀だ。年1回開催されるホームカミングデイにしても、参加者は限られる。なぜなら、卒業生は日本にばかりではない。国際学生はAPUを卒業すると、その3~4割は日本で就職か進学をする。それ以外の学生たちは日本にとどまらず、本国か他国へと巣立っていく。そんな事情もあり、APU校友会サイトには次のような一文がある。

「APU校友会はAPUの国際大学としての性質上、WEB上のバーチャルな交流が主となります」

校友会の活動状況を調べていくと、リアルな活動が少ないとはとても思えない。しかし校友会サイトをのぞいてみると、確かにリアルな活動に劣らず、バーチャルの世界でも活発な交流が行われていることがうかがえる。

〈ニュース〉コーナーには国内のみならず、北京や韓国、シンガポールといった世界各地で開かれた総会やパーティが報告されている。それらの模様は、さらに〈アルバム〉コーナーでも数多くの写真とともに公開されており、その場の熱気までもが伝わってくるようだ。また、〈ニュース〉コーナーは校友会に関する情報だけでなく、学内の現在の様子も伝えている。学生たちのサークル活動の告知や学内イベントの報告、あるいはAPUが取材を受けたテレビ番組の放映日時を告知したり、新校舎の竣工、生協で



夢応援プロジェクト



APU校友会HPより

売り出される新製品情報等々、大学にまつわるさまざまなニュースが一覧できる画面になっている。これから開催される校友会イベントについては、〈イベントカレンダー〉でその日程を確認することもできる。

〈校友エッセイ〉というコーナーでは、世界に散らばった卒業生たちがリレーエッセイを繰り広げる。たとえば、中国のテレビ番組制作プロダクションに勤務する日本人女性や、オックスフォード大学大学院に進学したフィンランド人男性、APUで働くトンガ人男性などが、近況やAPU時代の思い出などを語っている。

こうした情報コーナーのほかに、卒業生みずからがアクションできるコーナーもある。たとえば〈掲示板〉は、校友ならば誰もが自由に書き込みのできるコミュニケーションツール。このなかで大学時代の仲間と語り合うことが可能だ。また、〈校友検索〉というコーナーもある。ここでは「連絡を取りたいけど、連絡先がわからない」といった仲間の氏名や入学年、卒業年から検索できる。さらにその相手と連絡を取りたい場合には、メールアドレスを秘匿したままメールの送受信ができる〈私書箱メール〉というシステムを利用することもできる。

以上のように、世界のどこからでもアクセスでき、世界各地の校友の今、大学の今がわかるような数々の仕掛けがAPUの校友会サイトには施されているのである。

この校友会のもうひとつの特徴は、卒業生のみを対象とした組織ではないということだ。卒業生に加え、在校生、そして教職員もメンバーに入っている。

正確に言えば、「正会員」は卒業生および教職員と教職員経験者。在校生は「準会員」という位置づけで参加している。

「校友会が立ち上がった時点のことを申し上げるなら、やはり当初は大学側がある程度の枠組みをつくったといえますが、一方で学生たちのなかにも、今のこのネットワークを将来にわたっても大切にしていきたいと考え、活動を始める人たちが出てきたのです。彼らの意志ややり方を継承する組織として、『校友会実行委員会』という学生組織が誕生し、現在も後輩たちが盛んに活動しています」（古川氏）

夢応援プロジェクトや卒業パーティなどは実行委員会のメンバーが積極的に企画・運営しているという。つまりAPU校友会とは、卒業生、在校生に教職員も含めた、APUにかかわるすべての人々がひとつにつながるプラットフォームだといえそうである。

卒業生の国別組織化が課題

卒業生ネットワークの構築という点では、新しい大学だからこそ当初からシステム化がなされており、そのため良いスタートが切れたといえるかもしれない。しかし今後については、不安な点がないわけではない。

「まだちょうど4期生が卒業したところですから、これまでのところは、比較的ダイレクトに彼らの動向がつかめていました。しかし、問題はこれからでしょう。世界を舞台にした、彼らのダイナミックな移動が始まるわけですから」（高杉副学長）

そうなれば、他の伝統校と同じ課題を持つことになるかもしれない。つまり、いったん所在をつかめなくなった卒業生を追いかけることは、どの学校にとってもきわめて難しい作業であるからだ。

それをカバーする方策は大きく2つある。ひとつはサイト上で卒業生本人に登録情報の更新をし続けてもらうことである。そのためには個々の卒業生を、つねに校友会サイトに惹きつけておく必要がある。前述した多彩で豊富なコンテンツは、そのような役割も期待されているのだ。そしてさらに2007年度には、サイトをもう一段パワーアップさせようとしている。

「現在予定しているのは、国や地域別の検索機能です。

たとえばひとりの校友が今度スリランカに出張をする。その時に、『スリランカ』というキーワードで検索すると、スリランカ在住の校友が一覧でずらっと表示されるような仕組みがあれば、非常に喜ばれると思います」（河内課長）

国・地域別校友数一覧 2007年3月27日現在

国名	人数	国名	人数
アメリカ	29	トルコ	2
イギリス	7	トンガ	3
イラン	2	ナイジェリア	8
インド	47	ニュージーランド	4
インドネシア	86	ネパール	14
ウガンダ	8	パキスタン	8
ウクライナ	1	バブアニューギニア	3
ウズベキスタン	4	パラオ	1
エクアドル	2	ハンガリー	7
エストニア	3	バングラデシュ	17
エチオピア	3	フィリピン	24
オーストラリア	9	フィンランド	3
オランダ	1	ブルガリア	8
ガーナ	7	ベトナム	123
カナダ	12	ベナン共和国	1
カメルーン	2	ヘルー	1
カンボジア	7	ポーランド	1
グルジア	1	ボリビア	1
クロアチア	1	マダガスカル	1
ケニア	16	マラウイ	1
コートジボアール	1	マリ	3
コスタリカ	2	マレーシア	43
サウジアラビア	1	ミャンマー	20
サモア	5	メキシコ	4
ザンビア	2	モルドバ	1
ジブチ	1	モロッコ	1
ジャマイカ	1	モンゴル	10
シリア	1	ヨルダン	3
シンガポール	17	ラオス	15
ジンバブエ	2	リトアニア	11
スウェーデン	2	ルーマニア	3
スーダン	2	ロシア連邦	5
スペイン	1	韓国	182
スリランカ	31	台湾	110
スロバキア	1	中国	332
タイ	60	南アフリカ	1
チェコ	1	国際校友 合計 *1	1,356
ドイツ	1	国内校友 *2	1,779
トリニダードトバゴ	1	校友数合計	3,135

*1国際校友とは、在学時の在留資格が「留学」であったものをいう。
*2国内校友は、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む

そのシステムが出来上がり、在校生にもオープンするようになれば、在校生がOB訪問をしたいような時にも重要にするに違いない。

そしてもうひとつ、サイト以外で卒業生を追跡する手法として考えられるのは、海外における校友会拠点だ。現在も韓国や中国などには存在するが、出身国数と比較すると、その数はまだまだ少ない。それを今後は増やしてゆき、卒業生同士がface to faceで接する場を保持したいと考えているが、その方法については、ある程度の目処は立っているという。

「これまでは多彩な人種が行き交うマルチカルチュラル・コミュニティの良さをなくさないために、キャンパスでは、一国だけでサークルをつくらないなど、学生が学内で国ごとに固まらないような配慮をしまりました。その基本的な考え方を変えることはありませんが、一方で、民族的な絆や国家的アイデンティティは誰しも心の中にあるわけで、そうした気持ちに答え、さらに卒業後もネットワークを大切にもらえるようにと、今後は在学時から国別の学生組織をつくり、大学側が支援していくような体制にしていこうと考えています」（河内課長）

そのようにして在学時から同郷の学生同士の絆を深めておくことに加え、父母会への働きかけも考えている。APUは在校生の父母にAPUの教育内容や学生の動きを伝え、また逆に父母の教育ニーズを吸い上げることが目的に、父母会というものを組織している。たとえば国内では年に一度、全国7ヶ所で地域懇談会を開催し、どの会場にも非常に多くの父母が詰め掛けているという。海外にも父母会が存在し、とりわけ韓国では隣国に子女を送り出し、心配を募らせる父母がとて熱心に会に参加しているという。そうした集まりともうまく連携をとって、海外での卒業生の組織化をさらに進めていくことをめざしている。

APUは今年、「APUニュー・チャレンジ」として、取容定員の拡大や受入国数を増大させる方針などを打ち出した。その成功のためにも、海外における卒業生のネットワークづくりや父母たちとの連携は、今以上に重要なミッションとして充実がはかられていくことだろう。